

立川市緑化推進協議会の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	立川市緑化推進協議会 第2回
開催日時	令和6年3月21日（木曜日）午前9時30分～午前11時30分
開催場所	立川市役所 210 会議室
次第	1. 開会 2. 議題 (1) 市民アンケート結果について (2) 緑の概況と課題 (3) 計画改定の視点 3. その他
配布資料	資料1 立川市緑の基本計画に係るアンケート調査結果について 資料2-1 現況及び課題の整理 I～III 資料2-2 現況及び課題の整理 IV 資料3 今後のスケジュール（案）
出席者	[委員] 会長 村上暁信、副会長 阿部伸太、川口清、杉浦早苗、中嶋祐子、 来栖恵子、加藤喬久、加藤克昌、松岡二三夫、小野晃一、小林明 （敬称略） [オブザーバー] 田中希依（敬称略） [事務局] 平出賢一（基盤整備担当部長）、 武藤吉訓（公園緑地課課長）、西澤功典（緑化推進係係長）、 木村祐介（緑化推進係主任） [コンサルタント] 吉田禎雄、根岸勇太、篠塚明子
公開及び非公開	公開
傍聴者数	1名
会議結果	1. 議題 (1) 市民アンケート結果 ・市民アンケート結果報告、分析の内容や方法に関する議論が行われた。 (2) 緑の概況と課題 ・資料の文言に対する指摘のほか、民有地の緑の保全、緑の規模の違いとそれを考慮した計画のあり方について議論が行われた。 (3) 計画改定の視点 ・施策の達成度における質的な評価方法の検討や市民参画の支援の内容の具体化などについて議論が行われた。

	・「計画改定の視点」について、補足や訂正がある場合は事務局まで連絡すること。 2. その他 ・第3回は7月の開催を予定する。 ・会議に加え、車による現地視察を行う予定。
担当	まちづくり部公園緑地課緑化推進係 電話 042-528-4363

令和 5 年度 第 2 回 立川市緑化推進協議会 会議録

開催日時 令和 6 年 3 月 21 日（木曜日）午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分

開催場所 立川市役所 210 会議室

出席者 [委員]

会長 村上暁信、副会長 阿部伸太、川口清、杉浦早苗、中嶋祐子、
来栖恵子、加藤喬久、加藤克昌、松岡二三夫、小野晃一、小林明

（敬称略）

[オブザーバー]

田中希依（敬称略）

[事務局]

平出賢一（基盤整備担当部長）、武藤吉訓（公園緑地課課長）、
西澤功典（緑化推進係係長）、木村祐介（緑化推進係主任）

[コンサルタント]

吉田禎雄、根岸勇太、篠塚明子

[傍聴者]

市民 1 名

1. 開会

（課長より挨拶を行った）

2. 議題

（1）市民アンケート結果

コンサルタントより資料 1 の説明を行った。

（委員 A） 北部地域で住み続けたいと思う人の割合が低い要因は公園にあるとの結論付けには無理がある。この地域は都心や立川駅への公共交通の利便性問題を抱えている。むしろ公園以外にこそ要因があるのではないのか。

（会長） 指摘通り、緑以外の要因も考えられるため、各地域の世帯状況なども含めて検討する必要があると思う。

（B 委員） 市民参画のきっかけの作り方について、広報活動が重要だと思う。「立川崖線の自然を守る会」での活動で、広報を年に 1, 2 回配布しているが、入会希望者が出てきている。地域には、活動に参加したいと考えていても団体の存在を知らない人が多数いるので、地域活動について住民や行政が発信することが重要だと考える。

（会長） 活動意欲のある人に情報や機会がないのは問題であるため、情報発信についてはこれまで以上に注力し、方法について工夫する必要がある。

（委員 B） 私自身も管理組合の立場で行っていたので、全て行政任せではなく、自治会など地域主導で行っても良いと思う。

（会長） そのようなことが市民参加や市民協働に繋がると思うので、一度基本計画の中で訴えた部分ではあるが、具体化を進められるようにしたい。

（委員 A） アンケート結果では有料の国営昭和記念公園の利用者が多く、利用度が

高いという結果となったが、地元感覚としては、無料の立川公園や根川緑道も突出して多い感覚である。種々のテレビロケもあって、モノレール沿線など市外住民、外国人、子供や高齢者を含め全世代利用の公園の印象だ。結果に表れていないのは市民向けアンケートだから、と思う。

(会長) 市民以外の利用は大事な観点だと思う。今回のアンケート調査にはそのような項目は無いが、公園利用実態調査において調査されている可能性がある。立川公園や根川緑道は市外にアピールできる貴重な財産なので、市外の方の利用も想定した公園の整備についても後半議論できればと思う。

(委員 C) 全ての公園が規模に関わらず同様に扱われている。国営昭和記念公園から街区公園まで公園規模の違いによる分析があるとよりよいと思った。また、アンケートでは利用についてのみ分析を加えているが、都市計画の観点では、小さい公園でも災害時の活動の場や資材置き場になることもある。また、環境改善や生物多様性の保全は一般の方には理解しづらい項目であるため、これらの存在価値についての記述も重要だと思う。

(会長) 存在価値は重要であり、それを市民の方々に理解してもらうことも同様に重要であるため、広報や情報発信と合わせて議論したい。

(委員 D) アンケート結果では「後世に引き継ぎたい緑」で農地や屋敷林、社寺林が最下位だったが、若い世代に地産地消への関心を高めてもらうことその他に、農地の存在価値についても伝えていく必要があると感じた。農地は災害時における避難場所等の機能の他、自然や生き物との触れ合いなどの機能も有している。近年立川市では農地が減少しているが、商業施設内に地産地消の農産物を置く場所も増えてきたため、そのような活動を伝えることの重要性を実感している。

(会長) 農地に関して考えを深める必要があると思う。大事な緑であるという認識がないということが課題だと感じているため、身近な生活の中で農地を使ってもらうことで理解を深めるということを緑の基本計画の中で考えたい。

(2) 緑の概況と課題

(会長) (2) 緑の概況と課題と、次の(3)計画改定の視点は互いに関連するため、まとめて議論したい。

コンサルタントより資料 2-1、資料 2-2 の説明を行った。

(会長) 施策の実施状況について質問はあるか。

(委員 C) 資料 2-2 内の方針の順番について、方針 2, 1, 3 の順ではないか。また方針 2 の「緑を守り活かす」について、守ること一辺倒になるのではなく、緑を守ってその恵みを活かすというポジティブな表現ができるとよいと感じた。方針 3 のタイトルでは緑の豊かさを「高め」という表現だが、具体的な高め方が分かりづらいため、豊かさを「活かす」程度の表現でも良いと思った。また、記述内容が細かすぎる部分もあり、もう少し根本的な部分の記述に留めても良いと感じた。

- (会長) 方針のタイトルについては現行の緑の基本計画での話であるため、次回改定時にはご指摘の内容に留意したいと思う。記述内容の細かさについて事務局から補足はあるか。
- (事務局) ご指摘のあった箇所については庁内で意見を集約してその重要な部分をまとめた内容になっている。本日の資料の記載内容以外にも重要な項目については、今回の計画改定の中で議論出来ればと思う。
- (会長) 資料にまとめてある施策実施の担当はほとんどが公園緑地課になっている。公園は公園緑地課の主管ではあるが、他部局との連携が十分に進んでいない理由を考える必要がある。特にグリーンインフラの観点では、防災課との連携が2つしかない。地域防災を考える際の農地の活用について、防災課と共に主体的に議論した上で連携することが理想的だが、どのようにすれば連携に至るのかといったところまで、今回の緑の基本計画改定では議論したい。
- (委員 E) アンケート中に、社寺林や雑木林への市民の認識が足りていないという結果があり、それに対応して、民有地は量的に多くの割合を占めるが市民と保全し共有する方法が難しく、民有地の緑の保全の方法に関する課題があると思う。例えば社寺林は宗教法人が管理するため行政は関与しづらい一方、地域にとってはコミュニティの核になっている場合もある。どのように社寺林や雑木林を残していくかの方策を考えた方がよい。管理やボランティア活動を行える環境づくりが出来ればと思う。
- (会長) 民有地と社寺林は同一視できない問題ではあるが、重要な指摘である。現状での施策実施状況はどのようなになっているか。
- (事務局) 民有地の緑については保存樹木のように行政が補助金を出す形で維持管理を支援する制度がある。また保護樹林地の地権者と市が契約を結び、市が維持管理を行うため、他市より優遇していると思う。
- (会長) 緑を増やして市民にとって魅力的なものにしていくためには、もう少し誘導策が必要で、その方策についても緑の基本計画改定で考えていきたい。例えば社寺林などは地区計画の中で展開する方法もある。
- (F 氏) 緑と一口に言っても規模が様々である。資料を拝見すると、小規模公園の活用について、分類やグループ化のための諸元が定義できず、施策を実施できなかったとの結果があった。5 年程度を目安として、次の緑の基本計画の中でどこまでを目標とするか、指標を細かく整理すると具体的な解決策が検討できるのではないかと考えた。
- (会長) 大事な視点である。立川市では、公園に関するアンケートを実施する際、国営昭和記念公園から身近な公園まで、市民がどの公園規模を想像して回答しているかが把握しづらいという課題がある。丁寧に指標を整理し、しっかりの的を射た議論ができるようにしたい。

(3) 計画改定の視点

コンサルタントより資料 2-2 の説明を行った。

- (委員 G) まず緑の現状と課題について、資料 2-2 各方針の目標②「市民と協力して

自然的・歴史的な緑や郷土の緑を維持する」の3つの指標は達成度がいずれも低く、民有地の緑の維持の難しさが表れている。緑の維持すべき目標数値について、農地と緑どちらの視点で捉えるかということは重要な視点であるが、ただ量的な目標だけでなく、防災面、景観面など質的な目標を周知することも有効だと思う。

次に、緑地ボランティア団体代表の視点で指摘すると、資料2-1のp.4基本方針1.3で「食べ物や自然環境を大切にする意識を養う学習機会の提供」を課題とする一方、資料2-2のp.1の重点的な取組では「田んぼづくりへの活動支援、体験学習の支援」が主な実績となっている。体験学習は食べ物や自然環境を大切にする意識を養うものとして実施しているため、基本方針1-3の課題については他のことを記載した方がよいと感じる。

最後に、資料2-2のp.2方針2で「保全や維持管理への協力の重要性は市民に理解されており、いかに行動につなげていただくかが課題」とあるが、市民アンケートには保全や維持管理への協力に関心がある、という結果があった。この市民参画の視点について計画改定に盛り込むべきだと考えている。

(会長) 本来は目的に対してKPIを設定するが、KPIはあくまで手段であり、その手段が目的化しているところに課題がある。KPIは事務局が議会等で説明する時に必要になるが、同時に但し書き等で質的な状況にも触れ、KPIが達成できなかったとしても、市民にとってより良い環境になったということを事務局が議会で説明できれば問題ないと考えている。

同様に体験学習についても、回数だけでなく目標が重要であると考えている。

(事務局) 市民参画について、市民団体への支援に関して事務局から補足はあるか。情報発信だけではなく、支援内容が重要になると思う。実際どのように支援するかという部分に関して、しっかり計画に反映させたい。

(会長) 前回の基本計画検討の際も重視していた部分だと思うが、例えば市民団体との連携の仕方等を新しい項目として立ち上げるかどうかについて検討したい。

環境学習について、実施回数の記録だけでなく、参加前後での意識変化についてのアンケートを実施し、学習効果を調査する取組を同時並行的に行うことで、目標に敵う実践ができているかを確認できるような工夫が必要と感じた。

(委員C) 資料2-2のp.2の市民アンケート欄の方針2で、「老朽化樹木」という表現に違和感がある。老朽化とは建物等に使われる言葉であって、樹木に老朽化はなく、樹木が人とどのように関わって来たかという継続があつての今があると考えているので「古木化」や「大木化」のようなポジティブな表現に変えていただきたい。

アンケート結果の分析に加えて、自治体が自ら考えている意見や計画を提示することが重要で、それをどのように計画書に盛り込むのか。

同ページの計画改定の視点の中で、唐突に子育ての項目から記載が始まるのに違和感があった。豊かな緑の存在によって、生活環境が守られ、健康であるからこそ、子育て世代や年配の方が安心して歩くことができるということだと思うが、災害の視点もあり、記載の順番が優先順位と捉えられがちであるため注意が必要である。

(会長) アンケートの結果だけを反映させたものだけでなく、法改正や上位関連計画の示す方向性も含めて考える必要があるという点について同感である。子育て世代に関する項目が前半に記載されている唐突さに関しては、前回から子育て世代を重要視していて、国でも「こどもまんなか社会」という政策が行われていることも影響していると思う。

アンケート結果について、世代や地域によっても公園に求めているものも異なるため、その辺りを確認できるクロス集計を追加してはどうか。地域ごと、世帯ごとに様々な属性の方々が望む緑について、少し丁寧に見ることで、多様なニーズに対応するという平均値の議論ではなく、多様性に対応した議論を行い、それぞれのニーズに合わせて対応を考えることが計画改定には大事であると思う。

(委員 A) 記載内容の具体的な説明が必要だと思う。例えば資料 2-2 の p.2「骨格となる緑の保全とネットワークの形成」の項目記載は前進だが具体策が判りにくい。市民アンケートの際、国や関係省庁の法改正、公園の防災上の役割(緑道以外に他委員から対象は 300 m²以上の紹介あり)、総合政策や都市計画、都や周辺市との連携策の事例紹介が大事だ。市民の選択候補例として、上位政策のグリーンロードネットワーク等の例示方法が望ましい。

(会長) 今日は時間の都合で上位関連計画に関する話は簡潔にしたものの、計画に書かれている内容は他の計画等との連携があるため、それらの関係性についても整理して、次回以降に説明をいただくようにしたい。

(副会長) これまでの議論で資料 2-2、p.2 の、計画改定の視点が整理できたと思う。本日参加の委員の方々はそれぞれの立場から具体的な改善案があると思うので、それが改定の視点の中でどこに位置するのかを確認できればよいと思う。資料 3 の(1)の 4 つ目の施策の展開の段階で、具体的な内容が重要である。それに対する課題が抜けていないことを確認できればよいと思う。

ニーズが多様化する現在、個々人にあった緑のあり方を展開することが重要であるため、その点に関して報告書に盛り込んでいくことが重要である。広報の仕方を工夫することは特に重要であると考えている。

(会長) それぞれの立場から「計画改定の視点」の項目で、新たな展開が生まれそうな案や抜けている部分があれば、ご指摘いただきたい。

(委員 C) 「計画改定の視点」の「身近な公園や樹林・樹木の維持管理への適切なリソース配分の検討」について分かりづらいため、課題における具体的

な数値や期間が確認できる管理の実態を示し、それに対する具体的な解決策を提示することも重要だと思う。

老木化のリスク管理の問題について、自治体の樹木管理による部分が大きいため、危険とされる樹木の年数は一般化しない方がよい。

(会長) 樹木の維持管理については、協議会の中で具体的な数値の情報共有をした方がよい。

老木化のリスク管理については、身近な市民の方々にも樹木の現状の情報を提供いただき、官民一体の管理が重要という点を課題に位置付けたいと思う。

3. その他

(会長) 第3回の協議会について、5年前と同様に現地視察を行い、意見交換ができればと考えている。

(事務局) 5年前の現地視察実施時は、1時間会議、1時間半市内視察を行った。視察は車での移動を想定している。

資料3に記載の通り、次回の協議会は7月の開催を予定している。候補日について、4月後半に日程調整をして開催日を決定したい。協議会は公開会議であるため、広報たちかわに掲載する必要があり、周知期間の必要性も踏まえて早めに日程を調整したい。

議事録・議事要旨を作成してメールで送信するので、確認していただき、間違いや修正事項について意見を頂戴したい。

(会長) 第3回は視察の内容も踏まえて事務局から連絡して調整をしたい。本日はこれにて終了とする。

以上